

相澤冬樹さんの話を聴く

元 NHK スクープ記者で、現在は大阪日日新聞記者の相澤冬樹さんの話を聴く機会があった。NHK を退職した経緯などについてはすでにレポートしたので、「森友事件」の本質と残された謎を中心に紹介したい。

相澤さんの話のポイントを大阪日日新聞 9 月 28 日から— 誰が見てもおかしい土地取引なのに、財務省の担当者も、財務相も、首相も「問題ない」と言い切る。関係書類の提出を求めても「廃棄したからない」と言い切る。ところが後から出てくる。しかも改ざんされていたと分かる。誰が見てもきちんとした説明はされていないのに、「十分説明した。もう終わった」と、子どもでも分かるような嘘を政治の力で押し通した。嘘を突き通せば嘘がまかり通ることを世の中に知らしめてしまった。多くの方が無力感、さらには政治への絶望を感じているのではないのでしょうか



講演では、まず記者生活を振り返る。取材で大切なのは、思想信条・主義主張ではなく、人柄・相性。誠意をもって取材先とお付き合いし、信念をもって語ることだ。森友学園の籠池前理事長とも、偏見や先入観をもたず、誠意をもってお付き合いしてきた。

森友事件の本質は何か。森友学園ではなく、大阪府と国の事件である。設置要件を満たすか疑問のある小学校を無理やり認可しようとした大阪府、小学校の建設用地として国有地を大幅に値下げして売り払った国。大阪府（私学課）の役人が行政のルールをねじ曲げ、国（財務省・近畿財務局）の役人が行政のルールをねじ曲げて起きた事件だ。ごみの撤去費用の名目で、9 億円余の国有地を 1 億円余で売った。

交渉で財務局は、「めいっぱい出して上限いくらまでなら出せますか」と。森友側は 1 億 6000 万円と回答した。実際には 1 億 3400 万円を 10 年の分割払い。分割払いも財務局側が言い出した。賃貸料は年 2700 万円だが、分割払いになると年 1340 万円と半額になる。籠池氏は「神風が吹いた」と。

何のためにこんなことをしたのか。これが問題だ。この事件で現金は動いていない。贈収賄事件ではない。

森友学園のためというより、森友学園にあの小学校を作らせるために起きた事件だ。だから問題が発覚した途端、首相も大阪府知事も籠池氏を切り捨てた。本来お堅い役人たちが、なぜこんなおかしいことをしたのか。それを解明しないと、森友事件の解決にはならない。

(2018 年 11 月 14 日)